

30歳^{*}以上の「胃がんリスク検査」のご案内

※平成31年3月末日までに30歳に達する人も対象です。詳細は、受診対象者の欄をご確認ください。

無料

(全額健保組合補助)

あなたは大丈夫ですか？

日本人の胃がん患者の
99%はピロリ菌保菌者

指先から
簡単採血

自宅から
郵送でできる
検査です

あなたと
大切なご家族の
ためにも

早めの
「感染チェック」が
大切です

「胃がん」の原因の多くは「ピロリ菌」感染です！

胃がんリスクを知る上で、ピロリ菌感染の有無は重要なポイントになります。さらにピロリ菌感染検査と共にペプシノゲン検査を行って、胃がんの前段階である萎縮性胃炎がどのくらい進行しているかを調べるのが大切です。あなたのピロリ菌感染の有無と胃がんの危険度が郵送による血液検査で分かります。

ご注意
ください

ただし、次の方は正しい判定ができないため検査できません。

- ・腎不全の方
- ・プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- ・食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方
- ・胃切除後の方
- ・明らかな上部消化器症状のある方

※尚、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、胃がんリスク判定を受検する必要はありません。

お申込み方法

受診対象者

●30歳以上の被保険者本人または被扶養者

※平成31年3月末までに30歳に達する人も対象です。

●ピロリ菌検査を実施していない方

※平成25年11月以降に山王・大久保の直営健診センターで健保指定ドック又は1日人間ドックを受診された方はお申込みできません。(ピロリ菌検査実施済のため)

※今年度、山王・大久保の直営健診センターで健保指定ドック又は1日人間ドックの受診を予定している方も、申し込むことは出来ません。

※受診はおひとりにつき1回のみです。

ピロリ菌検査過去に当健保組合の補助で胃がんリスク検査を受診していない方が対象です。

検査費用(自己負担金)

自己負担金 0円 (全額健保組合補助)

●検査キット返送期日までに検査を実施いただけない場合、検査キットの代金をご請求することがございますので、必ず実施してください。

お申込みと検査キット到着



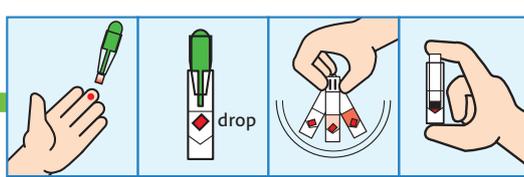
受付後、2～3週間程度で検査キットが届きます。到着後は、速やかに検査を実施してください。

●検査実施確認が取れない場合は、健康保険組合もしくは受付業務委託先の株式会社サンプリより検査実施依頼のご連絡がいくことがあります。

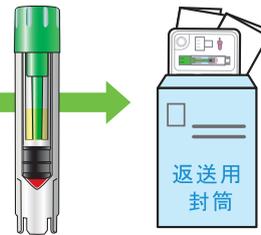
https://first-kensa.md/health_check/KsGT8zKvYBEAg

お申込み締切日：2018年5月31日(木)まで

自宅で採血



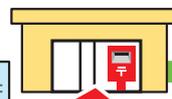
採血は取扱い説明書をよく読んでご自身で実施してください。



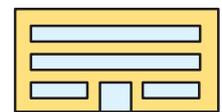
検体・検査申込用紙・問診票の3点を入れて返送してください。(切手不要)

検査センターに返送

検査キット返送締め切り
2018年8月31日(金)到着分まで



採血後は速やかに返送してください。



検査センターで検査します。

検査結果確認



検査が完了すると、お知らせのメールが届きます。

Webで検査結果をご確認いただけます。



メール本文のURLよりマイページにログインして、検査結果をご確認ください。

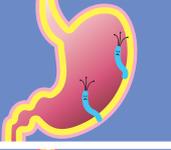
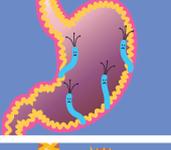


検査結果が出たら？

血液検査でピロリ菌と胃の状態をチェック！
胃がんリスクをABCDの4段階判定します。

■ピロリ菌検査、ペプシノゲン検査の2つの検査で判定

認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構「胃がんリスク層別化検査管理指針」を元に作成

ABCD判定 ↓	ピロリ菌 抗体	ペプシノ ゲン値	胃粘膜状態の予測		1年間の胃がん 発生頻度の予測	胃がんの 危険度
A群	－ (陰性)	－ (正常)		ピロリ菌感染がなく、 胃粘膜萎縮もない	ほぼ0人	胃がんになりにくい
B群	＋ (陽性)	－ (正常)		ピロリ菌感染があるが、 胃粘膜萎縮は軽度	1,000人に1人	↓ 胃がんになりやすい
C群	＋ (陽性)	＋ (異常)		ピロリ菌感染があり、 胃粘膜萎縮が進行中	500人に1人	
D群	－ (陰性)	＋ (異常)		胃粘膜萎縮が高度で、 ピロリ菌も住めない	80人に1人	
E群	胃がんリスク判定の 対象外		医療機関でピロリ菌除菌治療を受けた方はE群です。 長期経過で胃粘膜萎縮が改善傾向にあります。除菌後も経過観察が必要です。			

※判定がA群でも、自覚症状のある方、過去に画像診断を受けたことがない方は、医師へ相談してください。

胃がん以外にピロリ菌が
原因となっている疾病

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎など消化器系疾患以外にも心・血管疾患、呼吸器疾患、肝・胆・脾疾患、皮膚疾患、神経疾患など数多くの疾患との関連性が指摘されています。

もしも検査の結果、判定がBCD群だったら？

内視鏡検査、ピロリ菌除菌で「がんリスク」を撲滅！



ピロリ菌検査で陽性判定(B群、C群)だった方は、内視鏡検査を受けて除菌治療してください。通常1週間程度の服薬で除菌ができますので、ぜひ実施しましょう。

D群の方は、胃粘膜が荒れていて、疾病のリスクが高い状態なので、なるべく早目に精密検査(内視鏡検査)を受けましょう。内視鏡検査でピロリ菌感染胃炎の診断がつき、尿素呼吸テストや便中抗原で陽性反応であれば除菌

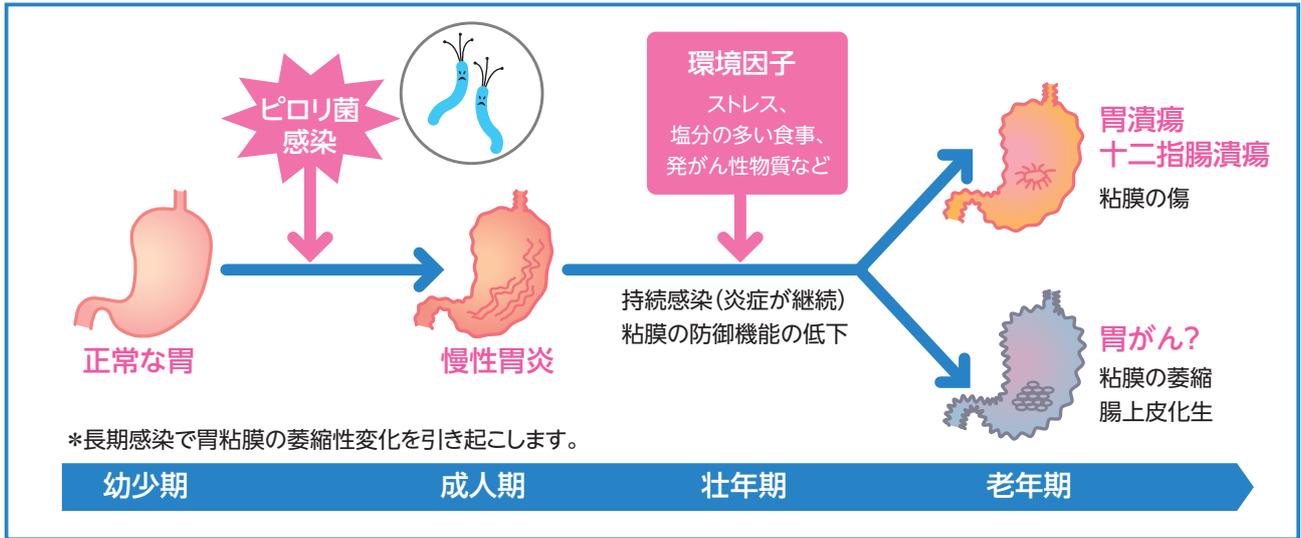
療法を行ってください。

内視鏡検査を行った上での除菌療法は保険証が使えます。質問票での回答による「医療機関で服薬によるピロリ菌の除菌治療を受けたことがある方」は、ABCD分類の対象外になり、E群(除菌群)と判定されます。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、除菌後も経過観察が必要ですので、定期的に内視鏡検査を受けましょう。

ピロリ菌に感染している？

「胃がん」の原因の多くは「ピロリ菌」感染です！

幼少期の頃のピロリ菌感染が、大人になってからの胃がん、胃潰瘍の原因になります。



*長期感染で胃粘膜の萎縮性変化を引き起こします。

日本人のがん罹患数予測順位(2016年)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	前立腺がん	胃がん	肺がん	大腸がん	肝臓がん
女性	乳がん	大腸がん	肺がん	胃がん	子宮がん

(国立研究開発法人国立がん研究センターがん情報サービス より)

「胃がん」と「ピロリ菌」の関係は？

日本人の2人に1人が「がん」に罹り、3人に1人が「がん」で死亡しています。乳がんや大腸がんなどの「生活習慣病」由来に対し、胃がん患者の99%は「ピロリ菌」感染により「がん」が発症しています。

また「ピロリ菌」に感染していても「除菌治療」をすれば胃がんになるリスクが減ることもわかっています。

「ピロリ菌」に感染すると…

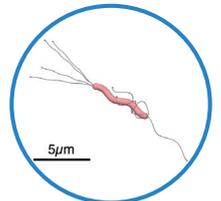
ピロリ菌に感染すると、萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍を発症することがあり、とくに萎縮性胃炎で胃粘膜の萎縮が進むと、胃がん発症の可能性が高まります。

「ピロリ菌の有無」と「ペプシノゲン検査」が大切！

ピロリ菌検査と共に重要なのが、ペプシノゲン検査です。

ペプシノゲン検査は萎縮性胃炎を調べる検査です。胃がんの前段階である萎縮性胃炎がどのくらい進行しているかを調べることで、胃がんのリスクが分かります。

それぞれが陽性と判断された場合は、精密検査(内視鏡検査を推奨)を受けることが望ましいといえます。



※詳しくは検査キットに同封されるご案内をご参照ください。

スマホで、パソコンで、いつでも気軽に「オンライン健康相談」もちろん、今回の検査結果についても相談できます。

- 検査結果で気になることや、健康上のお悩みなどをいつでも匿名で医師に相談できます。
- 気軽に相談できる「チャット相談」と、じっくり相談できる「テレビ電話相談(15分間・予約式)」があります。(テレビ電話での相談は顔写真とプロフィール付きの登録医師です)

30日間無料

今回の「胃がんリスク検査」にお申込みいただいた方は、「オンライン健康相談」をご登録後30日間無料でご利用いただけます。

●お問い合わせ●

お申込みについて
 受付業務委託先 株式会社 サンプリ
 Tel:03-3549-0810
 Mail : info8093@zaitaku-kensa.com
 10:00~17:00 (土・日・祝日・夏期休業は除く)



検査キットについて
 検査業務委託先 株式会社 リージャー
 デメカル サポートセンター
 ☎ 0120-100-302
 9:30~17:30(土・日・祝日・夏期休業は除く)

